

## 事業所自己評価シート

## 職員による自己評価

## A環境面

現在の利用定員から見たスペースとしては適切と感じている。人員配置については支援の質や活動内容を拡充させるための人員補充が必要だと感じている。

## B業務改善

業務改善に対する意識は高く、各職員が意欲的に改善に取り組んでいる。外部の研修に積極的に行く事も出来ている。

## C適切な支援の提供

支援に対しては、一人一人意識を持ちプログラムの立案を行い、計画書に沿った内容のプログラムを行う事が出来ている。

## D関係機関との連携

学校・事業所・医療との連携は適切に行えている。特に学校との情報共有は送迎時等の時間を活用して密に行えている。就学前に利用していた関係機関との情報共有については十分とは言えない。

## E保護者への説明

連絡帳や送迎時、電話連絡の機会を通じて利用時の情報共有は行えている。契約や支援計画書の手続きにて面談の機会も作れている。また懇談会を通じて活動時の様子を画像で伝えることが出来ている。

## F非常時等の対応

職員へのマニュアルの周知は徹底している。非常時行動については活動の中で子どもたちに絵を使って説明している。

## 保護者による評価

## A環境面

スペース・人員配置・専門性・事業所の設備は約7割の方から適切であるとの評価をいただいているが活動のスペースについてはどちらとも言えないという意見があった。

## B適切な支援の提供

客観的に分析されたサービス計画の作成、活動プログラムからの固定化しない工夫に関しては、全ての方から適切であるとの評価をいただいた。放課後児童クラブなどとの交流については不足しているとの評価。

## C保護者への説明等

支援内容・利用者負担等の説明・保護者との共通理解等は、全ての方から高評価をいただいた。

父母会の活動支援や保護者同士の連携等の家族支援については「どちらともいえない」との意見もあった。

## D非常対応

緊急時・防犯・感染症等のマニュアル整備やご家族への説明や周知については高評価をいただけた一方、非常災害時の訓練の実施については8割の方から「どちらとも言えない」との評価をいただく結果となった。

## E満足度

9割の方から「満足している」との評価をいただくことができた。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- ・事業所の設備や計画書の内容、活動プログラムの工夫については利用者、事業所ともに良い状況にあると評価している。また、家族を含む関係機関と事業所との連携についても高評価が共通している。

## 【相違点】

- ・活動スペース、放課後児童クラブや児童館との交流、保護者同士の連携支援、非常災害時の訓練については評価内容に相違があった。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・子供たちの新たな経験、チャレンジを応援できるよう、楽しく参加できるプログラム作りを意識し企画・実施している。
- ・子供、保護者が安心安全に通所できる設備環境を整えている。
- ・家族や関係機関との連携が密に行われることにより利用者個々に合った支援が実践できている。

### 事業所の改善点

- ・活動スペースの見直し。
- ・地域の子供との交流機会を確保する。
- ・非常災害時訓練の実施報告。

### 事業所の改善への取り組み

- ・活動スペースについては具体的な意見をいただきながら希望に副えるように改善を図る。また、老朽化した設備については随時修繕し、安心して利用できる環境を整える。
- ・普段の活動や施設行事を通じて地域の子供たちとの交流機会を提供していく。
- ・非常災害時訓練の様子を月間予定表などに載せて報告する。また、懇談会などで画像を交えて報告できるようにする。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

活動内容については保護者からも外出に連れて行ってもらえて嬉しいとの意見を多数いただくことができ安心した。今後も外出活動を通して児童の成長に寄与していきたい。

保護者とのコミュニケーションの重要性を再認識することができた。引き続き利用状況報告を徹底していきたいと思う。また、ご自宅や学校での情報を積極的に得ることでより充実した支援、活動の提供につなげていきたい。

事業所名 よこはまりバーサイド泉わかば

担当者 菅野 詩織